

旧播磨北小学校から兵庫県立東はりま特別支援学校に 地域に開かれ共に歩む、新たな学校を目指します

▼問い合わせ 県立東はりま特別支援学校

☎079(430)2820

平成19年3月末に廃校した播磨北小学校の活用については、住民参加による「旧播磨北小学校施設運営協議会」(以下、運営協議会)を設置して検討中に、兵庫県教育委員会から「県立いなみ野特別支援学校」の過密を解消したいと、特別支援学校開設の申し出がありました。町では、これまでの検討内容と運営協議会の意見などを踏まえ兵庫県教育委員会と協議を重ね、地域交流施設の整備などを条件に合意し、平成21年4月に県立東はりま特別支援学校が開校しました。

教育方針

県立東はりま特別支援学校では、「明るく」「正しく」「元気よく」を校訓に子どもたち一人ひとりの障害やニーズに応じた教育を行っていきます。ゆつくりと時間をかけ、ねばり強い心、健康な体、基本的な生活習慣、社会性を養い、生きる力を育てます。併せて、将来の就労に向けて必要な力や態度を育てます。

学校の特徴

豊かな自然と古代文化の息づかいが聞こえる場所に位置

地域交流の拠点

東はりま特別支援学校内に建築される地域交流施設については、施設の活用などについて運営協議しました。播磨町公共施設有効利用促

し、静かで落ち着いた環境の中に学校があります。学校敷地内には、地域交流施設があり、この施設を拠点に地域との交流や連携を深めていきます。通学区は、播磨町・加古川市南部・高砂市で、通学方法は、スクールバス、自力通学となっています。進検討委員会による基本理念「播磨町全住民、さらには町域を越え、世代を越えて人が集い、出会い、つながりが生まれる、新しいコミュニティ施設をめざす」に基づいて、施設の活用と運営方法について検討し、旧北メモリアルや学校開放により、福祉・地域づくりの拠点、交流の場としての活用を目指すこととしました。

現在、平成22年度の地域交流施設の開設に向けて、施設の具体的な活用と運営方法について検討を進めています。

特別支援学校とは

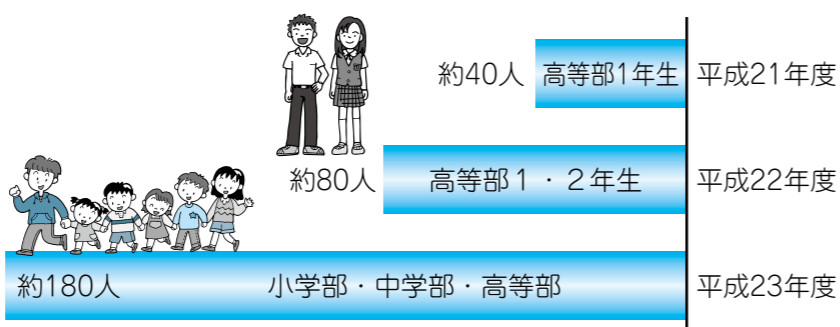
平成19年度から、「盲学校」「聾学校」「養護学校」が一本化され「特別支援学校」になりました。「特別支援教育」とは、障がいのある幼児・児童・生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援す

るという視点に立ち、幼児・児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持つ力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものです。

児童・生徒の受け入れについて

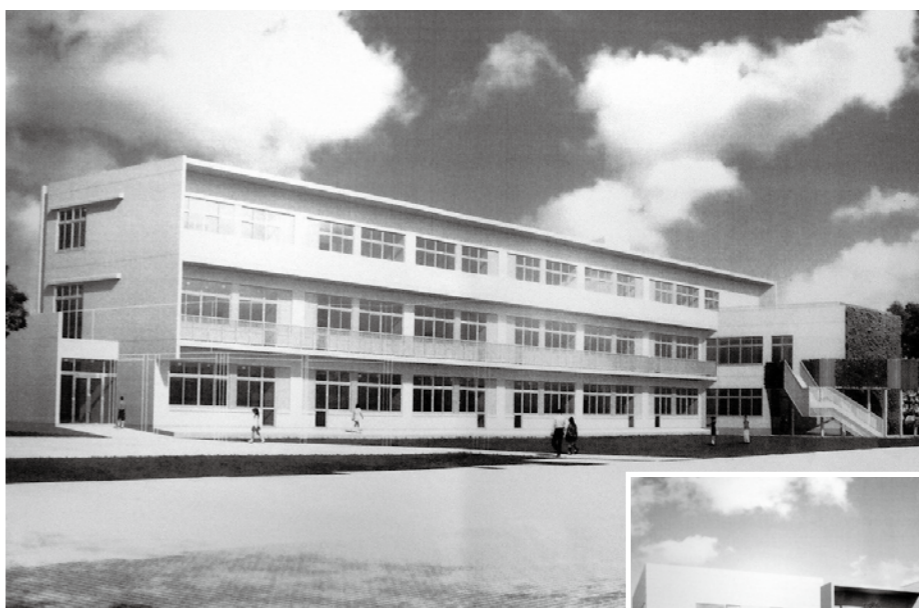
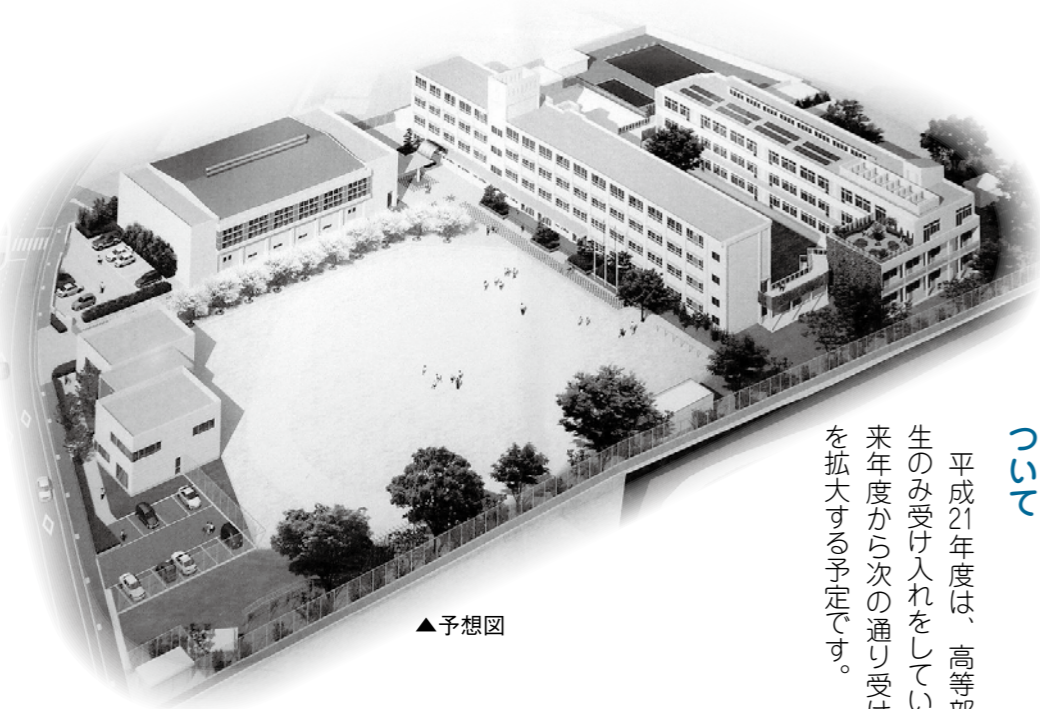
平成21年度は、高等部1年生のみ受け入れをしています。来年度から次の通り受け入れを拡大する予定です。

年度別 児童・生徒の受け入れ人数



今後の工事予定

- 平成21年度
 - 生徒棟(新校舎) 建築 (平成21年5月～)
 - 地域交流施設建築 (平成21年6月～)
 - 体育館耐震改修 (平成21年6月～)
- 平成22年度
 - 旧校舎耐震改修 (平成22年6月～)



播磨町の皆さまへ

東はりま特別支援学校 初代校長 藤井淳一



本校は、平成21年4月の開校を目指し、準備を進めてきました。県立いなみ野特別支援学校の児童生徒数の増加にともない、播磨地域における特別支援学校の規模の適正化を図り、特別支援教育の充実に資するために、また、保護者や地域のニーズに応えるべく本校は開校しました。

本校では、播磨町の皆さまのご協力を得て、地域と共に歩む、新たな特別支援学校を目指しており、その象徴として、学校敷地内に地域交流施設を設置します。この施設は、平成22年4月の開設予定で、この施設を通して地域の皆さまに、特別支援学校を理解していただき、多様な分野での連携を実施します。また、地域の福祉、交流の拠点としてもフル活用をしていただき、特別支援学校が地域の町おこしのお役に立てればと考えております。

今後は、いなみ野特別支援学校と協力して、播磨地域の障がいのある児童・生徒などの特別支援に係るセンタ―的役割を果たすべく、その教育力の向上を目指し、職員一丸となって新たな特別支援学校をつくりあげていきたいと考えています。

地域に愛され、信頼される特別支援学校になるためには、皆さまのご支援、ご協力が必要です。どうぞ、皆さま方のお力添えをいただき、地域とともに歩む「東はりま特別支援学校」をよろしくお願い申し上げます。